



壬生町政がまじ

住民登録人口

昭和42年4月1日現在	対前月比
総人口 24,351人	80人増
男 12,016人	39人々
女 12,335人	41人々
世帯数 5,109世帯	28世帯増

発行所 栃木県壬生町役場 (毎月24日発行) 昭和34年9月30日第三種郵便物認可 一部3円



交通安全旗をもって横断する壬生小新入生

新入学児への交通安全のしつけ

「身体」で習慣づける

問 新入学児を持つ母親ですが

子供の登校や下校が心配です。交通安全のしつけ方と学童の交通事故の様子をお知らせください。

答 ことにも対する交通のしつけは、ばく然と話をして聞かすよりも実際にやってみてからだで覚えさせる。そして何回もくり返し練習し習慣づけることが大切です。

また、教える場合には、具体的即物的に、例えば通学路などに自働車がきたときは渡ってはだめです。「このかどを曲るときには、こちらからくる車に注意するのです」といったように、手をとった教え方をすることです。

しつけの内容としては、まず道路の歩き方、すなわち歩道と車道の区別のあるところでは歩道を、区別のないところでは右側のはしを歩くこと、場合によっては右側のはしを歩くことが安全なかと教えること、つぎに道路の渡り方、この場

合多少まわり道でも信号機のある交差点か横断歩道をわたるときと渡るときは、どんな所でも横断歩か手をあげて合図し、右左、右と見て車が止ったのを自分の目で確かめてから渡ることも、なお車はブレーキをかけてもすぐに止らないことを教えること。

信号については、特に黄色について、本質的には赤の止まれと同じ意味であることを教えるまた広い道路などでは、信号が青であっても次の青まで待つようにしつける。

昭和四十一年中のことも(十五歳以下)の交通事故は死者千九百七人、負傷者七万七千八百五十六人となっている。各年令を通じて最も多いのが飛びだし、ついで車の直前直後の横断路上遊ぎとなっている。

事故の発生時間は、午後一時から七時までが多発時間帯になっており、なかでも午後三時から午後五時の学校放課後がとびぬけて多い。曜日では土曜日、日曜日の順になっている。学校や家庭の監視の目から解放された気分のゆるみが、事故を招いている(警察庁)

お知らせ



五月の予防接種

五月の乳幼児の予防接種は別表の日程で行います。

▽百日咳ジフテリア予防接種(第二回目)

初回昭和四十一年一月一日から同年十二月三十一日まで、生れた乳幼児で、三週間おきに三回接種を行う。

Table with columns: 日 (Date), 時 (Time), 場 (Venue). Rows for 5月8日, 5月9日, 5月10日 at various locations like 壬生中央公民館 and 南犬飼公民館.

生ワクチン投与

Table with columns: 月日 (Date), 時 (Time), 場 (Venue). Rows for 5月24日, 5月25日, 5月26日 at 壬生中央公民館, 母子健康センター, and 南犬飼公民館.

ボーイスカウト団員募集

日本ボーイスカウト下部会第一団(森喜)委員長では、少年団員を募集しています。

人事消息

壬生町役場 退任、退職者(三月三十一日付) 大垣八郎(助役、鈴木道喜(取入役)、板橋ヨシ子(教委)、阿久津ユト(第二保育所保母)、赤羽根トミ子(羽小給食婦) 新採用 四月一日付 第一保育所保母 鈴木マサ子、羽

小給食婦 11 年 2 女 悦子

小中学校 一、管内配置換えと管外転入 壬生小学校 1 稲葉小、黒沼小から 粟原チル、安塚小、黒沼小、黒沼小、野沢茂(大谷南小) 手塚クニユ(大伏小) 藤井小次郎(大塚ハマ(壬生小) 東小学校 1 校長岡安一(北小) 教頭鈴木清一、池田宏(都宮中) 稲葉小学校 校長妻倉信彦(上古山小)、栗原芳子(壬生小橋本陽子(県立養護学校) 北小学校 1 校長渡辺岩治(上古山小)、教頭朝日一雄、鈴木正男(藤岡小) 安塚小学校 校長戸田修七(東小) 柏倉一校(北小) 壬生中学校 校長西川正一(栃木千塚小)、鈴木裕子(静和中) 藤原芳江(新採用) 宮田ヒロ子(県立養護学校) 稲葉中学校 1 校長河野弘吉(壬生中) 南犬飼中学校 1 河野弘吉(稲葉中) 二、管外転出 上古山小学校 渡辺正一(北小より) 県立盲学校 校長賀神葉子(壬小)、小山二(中) 鈴木義典(壬小)、鹿沼中 中央小事務局長鈴木貞人(壬小)、静和中 杉山ミツ(壬中)、国府中 崎谷勝雄(大中) 三、退職 鳩山博(東小学校校長、高平武之助(稲小校長、大塚徳男(安小校長)、相田正作(壬中校長)、加藤ミヨ(藤井小)、安川勝司(東小講師)、市川輝子(壬中)、東部洋子(壬中)、三沢郁子(壬中、稲中講師)



壬生時代の世相

幕末の世相 その三 前回は幕末の世として主に財政面のことについて記述したが今回はその時代にあつた社会面の雑件について述べてみたい。



現在のしのめ橋(黒川)

江戸では明暦年間所謂振神火事という大火があつたと言はれているが、壬生では嘉永六年暮れの廿八日に宮街池いせやが火元伊勢屋火事(今から百十四年前)という大火があり壬生の市街地を殆ど焼つくした。その時焼けたものが御家中屋敷九十九軒表町百三十九軒通町百七軒土蔵三十五ヶ所堂二ヶ所等であつた(詳細は前に書いたことがあるので略す)。この年には安塚にも大火がありその他前後して所々火災が多発したことが記録にある。

一方壬生は河川と関係深く黒川小倉川、栗川等によつて多くの恩恵を受けているが又水害にも成り悩まされている。大体この頃の地方の交通路は河川に橋がなく渡船であるかお粗末な仮橋位であつた。これには相当な理由もあつたことだらうが不便であつたのは事実である。文化六年(一八五十八年)前、今の宇都宮街道しのめ橋の辺に瀬く仮橋が出来た。記録によると長さ十四間あり出し四間一尺北側は二間南側は二間十一月に完成した。恐らく洪水期の臨時のものであつたろうが栃木街の小倉川は永く渡船であつて船頭も次第に横暴となつて長く通行人を待せたり船賃の割増を請求したり物を売つたものには之を追いかけて船賃を請求するなど可成通行人迷惑した。これ等に関する記録は表町給木貞一宅にのこつてゐる古文書に詳しく書いてある。滑稽な事は松前様から將軍に献上する経典用の鷹が人間様より堂々と通行したことである。(福田)